

## 「市民参加懇談会 i n 御前崎」の概要

- 1 . 日 時：平成 1 7 年 1 0 月 5 日（水）13:30～17:00
- 2 . 会 場：静岡県御前崎市 新野公民館
- 3 . テーマ：「知りたい情報は届いていますか」  
～ これまでと、これから ～
- 4 . 出席者：
  - ・市民参加懇談会コアメンバー  
碧海委員、新井委員、井上委員、小沢委員、  
中村委員（司会・進行）吉岡委員
  - ・原子力委員会  
木元委員（座長）  
（オブザーバー）近藤委員長、齋藤委員長代理  
町委員、前田委員
  - ・市民の方からのご意見発表  
池田 文明 氏 御前崎市在住  
大澤 幸子 氏 御前崎市在住  
大澤 尚登 氏 御前崎市在住  
片山満洲雄 氏 浜岡商工会副会長  
鈴木 俊夫 氏 御前崎市在住  
藤原 照巳 氏 御前崎市在住  
増田 勲 氏 夢咲農業協同組合浜岡地区担当理事  
増田 勇一 氏 御前崎漁業協同組合長  
柳沢 静雄 氏 御前崎市在住  
山下マサ子 氏 御前崎町商工会女性部長  
(参加者) 約 2 4 0 名  
(プレス) 2 0 社

## 5 . 概要:

( 1 ) 第 1 部 市民の方 ( 事前に依頼 ) からのご意見発表では、御前崎市在住の 1 0 名のご発言者からご意見を伺い、コアメンバーからも質疑が行われた。( 約 2 時間 )

( 2 ) 第 2 部 会場参加者からのご意見発表では、参加者 ( 1 5 名の方々がご発言 ) からご意見を伺うとともに、市民参加懇談会コアメンバーの応答を交えて、活発な意見交換が行われた。( 約 1 時間 )

( 第 1 部での発言の例 )

- ・ 原子力発電所により、各施設や道路の整備、雇用の促進、電気料金の還付、補助金などの恩恵を受けたと感じる。
- ・ 企業の不祥事がクローズアップされるようになり、企業の情報開示が重要視されてきたために、情報は入りやすくなってきている。また、回覧板、原子力の情報誌、C A T V、説明会でも情報は入ってきている。ただ、原子力発電所のこととなると、理解しにくい感があり、できるだけわかりやすいように説明頂きたい。原子力発電所とは共存共栄してゆくことから、小中学生でも理解できる説明をすすめてもらいたい。
- ・ 原子力発電所の見学会や講演会に参加し、不安のない、丁寧な説明で心配しなくていいと感じた。発電所の地域の職員との信頼関係、コミュニケーションが原子力発電の安全性、安心感につながるのではないか。
- ・ 知りたい情報といえば原子力発電所が東海地震に耐えられるかが関心事であり、その情報は届いていない。
- ・ 想定東海地震のシミュレーションを行い、どのように対応するか危機管理としてのシナリオを作成してもらいたい。
- ・ 中部電力が静岡県や御前崎市と結んでいる安全協定には事前了解の項目がないが、国内 1 7 の立地地域のなか

で浜岡だけであり、事前了解の項目を盛り込むように指導して欲しい。

- ・ プルサーマルは、安全性が客観的に確保されるまで、そして東海地震をやり過ごしてから、改めて協議するようにして欲しい。
- ・ 原子力発電所の建設によって地域の開発振興、雇用の拡大に効果があった。また、CATVや通信システムも整備された。
- ・ 地域発展という原点に立った情報提供が必要である。浜岡原子力発電所は住宅地と隣接しており小さな事故に対しても非常に影響が大きいので、安全性を願う。原子力発電所は安全が必須である。
- ・ 企業や行政は速やかなる情報開示が必要である。公表の遅れは不信や不安を招く要因になり、場合によっては大きな社会問題に発展しかねない。
- ・ 中部電力のプルサーマルに関する戸別訪問で元中部電力社員がインタビューに答えたものが報道されたのは、やらせではないのか。
- ・ 2年続けて火災が発生した。テレビ報道されたが、市民には、ほとんど情報がなかった。
- ・ 知りたい情報とは、自分が知りたいと思っている時に届くもの、自分が知りたいと思ったものを取り寄せること、知りたいと思っていなかったが関心を持つもの、であると考えており、これらがタイムリーに届くと良い。
- ・ 原子力発電所での事故が発生した場合、農家は風評被害が無いことを確認するまで安心できない。
- ・ 昭和では特に無かったが、平成に入って磯焼けにより海藻が全滅状態となっている。温排水が原因かどうかは自分ではわからない。陸上に比べて海の中の情報が入ってこない。海中や海底の調査結果では異常がないと言っていたが、正確な情報を知りたい。

- ・ 原子力発電所は危険であるが、異常な天災による事故では電力会社は免責される。
- ・ 原子力の推進は不利な情報を隠し、反民主主義的にごり押しされてきたのではないか。
- ・ 二酸化炭素排出の削減のためには原子力発電所が必要であるとする。
- ・ 住民の多くは難しいことはわからず、事業者を信頼するしかない。きちんとした説明を続けて欲しい。専門用語はわかりにくいので、誤解されないよう説明することが大事である。

( 第 2 部での発言の例 )

- ・ 地震の専門家から浜岡原子力発電所は危ないとの発言があることを知ってほしい。静岡県民は、東海地震とそれに対する浜岡発電所の安全性に注目しており、専門家を交えた討論の場を作って欲しい。
- ・ 国の原子力政策であるとか、企業利益であるとかの問題の前に、住民の安全や安心を第一に考えた政策を検討して欲しい。
- ・ 核燃料サイクル、バックエンドに関して、新計画策定会議での吉岡委員の提案のいきさつについて知りたい。また、核燃料サイクル政策のメリット・デメリットについて知りたい。
- ・ いざ非常に大変な事態が発生した場合に住民がどうしたらいいかという情報が不足している。原子力防災に関して、もう少し住民にアピールする必要がある。
- ・ ヨーロッパでは35基、プルサーマルの使用実績がある。先行のヨーロッパに行き、いろいろな話を聞き、安全性を確認した上で推進してもらいたい。他の地域から反対派が来るが、住民自身で納得したうえで、受入体制を作りたい。

- ・ 原子力発電所の至近に民家があるという情報は伝わっているか。
- ・ 目に見える安全対策を望む。事後対策ではなく、1959年に科学技術庁によって検討した原子力都市計画法のような事前対策の法律を制定して欲しい。
- ・ 静岡県のテレビや新聞では今週の地震のコーナーがあるほど地震についての関心が深い。
- ・ 中部電力は10月1日より1リットル以下の漏洩は情報発信しないこととなったが、これまで通り公表してほしい。
- ・ 中部電力からはプルサーマルに関してマイナスな意見が出てこない。その情報公開が大事なことである。
- ・ 防災について調べたが、地震の時は家から出られるよう戸や窓を開け、放射能漏れの時は窓を閉め、外に出ないという対応をとるが、地震が発生し放射能漏れの場合の対応方法がわからない。また、静岡県では地震防災の訓練はするが、放射能防災の訓練はやったことがない。このような時の対応についての情報が知らされていない。
- ・ 浜岡原子力発電所は29年、事故もなく過ぎた。レベル1に満たない問題を取りただけで反対しては日本のエネルギー問題を解決できないのではないか。
- ・ 一番知りたい情報は安全や安心であり、仮に事故が起こったとしても、過去の類似事例につき、その後の対策・点検について情報が得られれば安心感を持てる。
- ・ 放射線について、国の基準と比較した数値だけでは安全・安心がよくわからない。似た地域（例えば三重県）との比較を示した方がわかりやすいのではないか。
- ・ 地震は地震、原発は原発、と情報が別々に流れており、これを一つにした情報が届いていない。市民自身がその内容を判断することによって安心感が持てる。

- ・新しい情報が出たら、それに対してきちっと答えていくようなシステムが必要である。
- ・原子力Q & A 集での放射線に関する記述やプルサーマル計画のパンフレットで原子燃料とペットボトルを同列にあつかった記述には不満がある。情報操作があるように思える。
- ・中部電力で耐震性向上のための補強工事を行っているが、具体的に知りたいし、自らで検証したい。
- ・電源三法交付金の他に電力会社いろんなお金が流れていると聞いているが、そういうものを公開してもらえないのかと思う。
- ・推進でも反対でも一堂に会し両方の意見を聞き、話し合いをすることが大事である。